

2009 「洪水ハザードマップを活用した地域防災計画作成」 研修実施報告



開講式後の集合写真

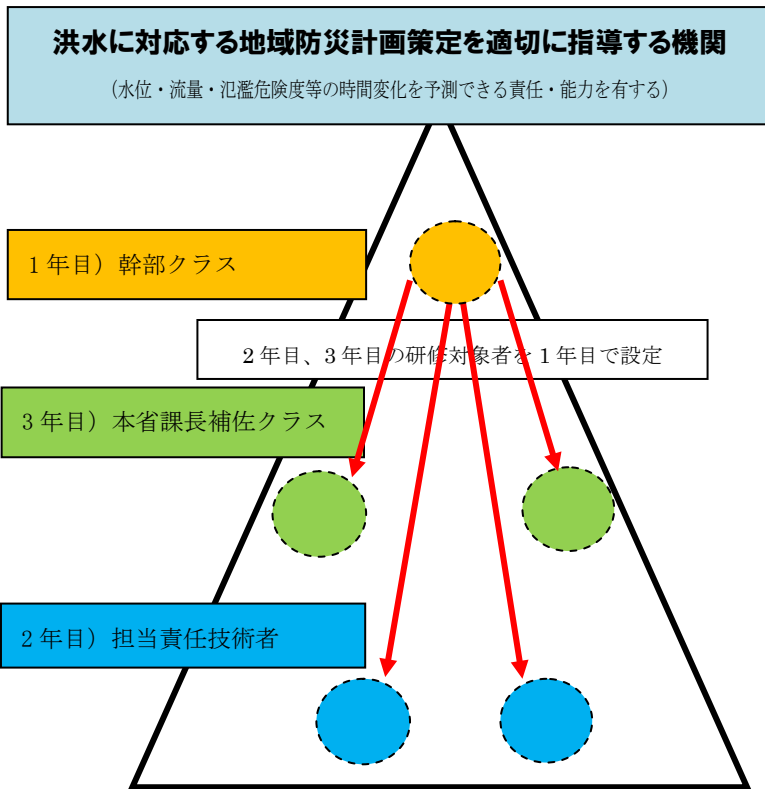
ICHARM は、2009 年 11 月 9 日から 11 月 27 日にかけて、JICA 研修「洪水ハザードマップを活用した地域防災計画作成」を実施しました。

本研修の対象機関は、洪水災害が多発している国にあつて河川管理等洪水関連災害の防止軽減を所掌し、かつ、関係法令を所管または緊密な関係を有する機関としています。

本研修は、昨年度までの「洪水ハザードマップ作成」研修の内容をより発展させ、「組織能力向上型研修」を目指して、原則として同じ機関から派遣される研修生の参加によって3か年計画で実施することを大きな特徴としています。まず今年度は、研修対象組織の幹部クラスの参加によって、当該国の洪水災害対策の問題点・課題を整理し、次年度以降の参加者を決めます。2年目の参加者は、FHM 作成を行う技術者クラスを対象に、主に FHM 作成のために必要となる技術を取得し、3年目の参加者は、予警報システム・FHM および防災体制を推進する本省課長補佐クラスを対象に、各国における地域防災計画作成の方向性並びにスケジュール等をアクションプランとして作成します。3年間の研修終了後、フォローアップを行い、アクションプランの進捗を確認するとともに、時点修正を行います。(図1参照)

今年度は、バングラデシュ1名、ブータン1名、インドネシア2名、ラオス1名、ミャンマー1名、パキスタン1名、スリランカ1名、タイ1名およびタジキスタン1名の計10名が参加しました。(内2名はアジア開発銀行(ADB)資金による参加)

また、現在 ICHARM が実施中の修士課程「防災政策プログラム 水災害リスクマネジメントコース」の学生も参加し、あわせて総勢 23 名が本研修に参加しました。



達成目標

1) 自国の洪水災害対策(ハード面、ソフト面、体制面など)の問題点・課題が整理される。

2) 次年度以降の研修計画が整理される。

4) FHM、予警報システム及び地域防災計画における避難計画の相互関係が整理される。

5) 対象地域における地域防災計画作成の方向性及び中期的スケジュールの概略が整理される。

3) FHM 作成に必要な技術が習得される。

図1 各年における対象者と達成目標

研修初日に JICA 筑波で行われた開講式では、佐藤武明 JICA 筑波所長、坂本忠彦土木研究所理事長及び竹内邦良 ICHARM センター長の挨拶の後、ブータンから参加した Pema SINGYE 氏が研修生を代表してこの研修での決意を表明しました。



3週間にわたる本研修は、主に講義、演習、現地見学、ディスカッションにより構成しました。

本研修では、地域防災計画を作成する意味の一つは『洪水時にいかに住民を的確に避難させるか』であると考え、幹部クラスの研修生に、いかに自国における課題や克服方法を考えてもらうかを考慮しながらカリキュラムを構成しました。

講義： ICHARM からは竹内センター長が「災害原論」、田中グループ長が「日本の防災対策概論」・「洪水ハザードマップ」・「地域防災計画」、工藤上席研究員が「河川情報と早期警報システム」・「水防法と避難のための水位」、深見上席研究員が「GFAS/IFAS 概要紹介」に関する講義をそれぞれ行いました。



竹内センター長による講義



田中グループ長による講義



工藤上席研究員による講義



深見上席研究員による講義

また、招へい講師による講義として、林春男教授(京都大学)による「災害時の人間行動」、海津正倫教授(名古屋大学)による「河川と沖積平野の地形学」をそれぞれ行いました。さらに、ICHARM と互いに研修における交換講師の協定を結んでいる UNESCO-IHE から Frank van der Meulen 准教授と Rien van Zetten 講師を招へいし、特別講義を行いました。



林教授による講義



海津教授による講義



Meulen 准教授による講義



Rien 講師による講義

「洪水時の情報伝達の方法・課題」や「日本での洪水ハザードマップの活用例」、「災害時の要援護者対策」などについて、気象庁、国土交通省関東地方整備局河川部や利根川上流河川事務所、三重県防災危機管理部、三重県伊勢市の担当者、東京都足立区や愛知県清須市の担当者から直接講義を受けました。伊勢市訪問の際には、市役所ホールにて職員の皆さんによる拍手でのお出迎えを受け、さらに市長によるご挨拶も頂きました。



気象庁における講義
(予報部予報課 深町氏)



関東地方整備局での災害対策室見学
(河川部 山本 水災害予報企画官)



利根川上流河川事務所における講義
(小林 防災対策課長)



三重県危機管理部における講義
(高須 地震対策室長)



足立区役所における講義
(工藤 計画調整課長)



永田純夫 清須市副市長によるご挨拶



清須市役所における講義
(防災行政課 野口氏)



伊勢市役所ホールでの出迎え



鈴木健一 伊勢市長によるご挨拶



伊勢市役所における講義
(中村 危機管理課長)

また、伊勢市においては、円座地区と大湊地区でそれぞれコミュニティリーダーへのヒアリングを行い、防災の基本となる自助・共助の重要性について学習しました。コミュニティの重要性や災害を通じてその結束が強まったことなど、貴重なお話を聞くことが出来ました。



伊勢市円座地区上田氏による講義



伊勢市大湊地区振興会長 金森氏による講義

演習: ICHARM の栗林主任研究員の指導により、三重県伊勢市大湊において、研修生自身が洪水ハザードマップを持って街を歩き、災害時における危険箇所など気づいた点をグループで議論し、安全マップの作成を行う「タウンウォッチング」演習を行いました。伊勢市役所職員の皆様には、街を歩く際にグループに同行して頂くなど多大なご協力を頂きました。研修生は、防災意識啓発におけるマップ作成の有効性などを改めて認識しました。

また、「Project Cycle Management (PCM) 演習」を行い、研修生自国での洪水時避難の課題の認識とその解決策について客観的に整理した後、帰国後における今後の行動計画を、研修生それぞれが作成しました。



伊勢市大湊地区でのタウンウォッチング



PCM 演習の様子

現地視察:

日本の洪水対策の現状を学習するため、2000年の東海豪雨で大きな被害を受けた庄内川流域の治水対策(国土交通省中部地方整備局 庄内川河川事務所)、木曾三川分離事業と輪中での暮らし(木曾川下流河川事務所)及び雲出川霞堤(三重河川国道事務所)の見学を行いました。また、土木研究所近くの小貝川における水位・雨量観測所(下館河川事務所)の見学も行いました。



庄内川河川事務所での事業概要説明
(小島 事務所長)



木曾三川公園での事業概要説明
(溝口 事業対策官)

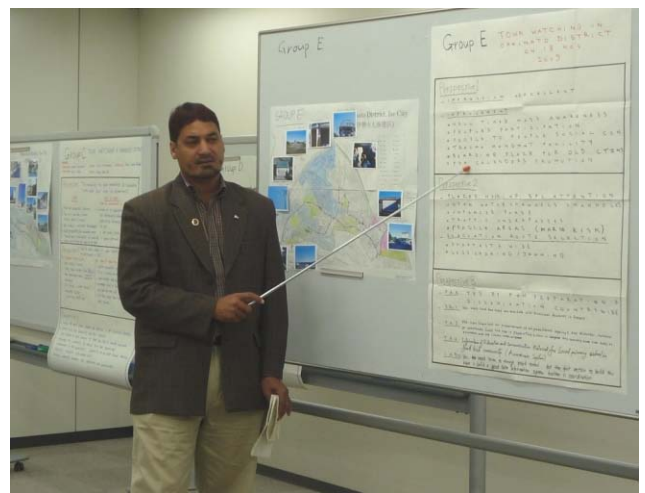


雲出川での霞堤概要説明
 (藤田 調査第一課長)



小貝川黒子観測所での概要説明

ディスカッション:タウンウォッチングから学んだことや、効率的な避難計画策定のために必要な点について、グループ毎にディスカッションを行い、発表を行いました。



各グループでのディスカッション及び発表の様子



また、国土交通省本省を訪問し、河川局次長と面談しました。

研修の最終成果として、各研修生が、各国において洪水予警報システムやハザードマップを活用した地域防災計画を作成するためのアクションプランを作成し発表を行いました。帰国後、各自が所属する組織にて報告が行われることになっています。



閉講式では、佐藤武明 JICA 筑波所長、瀬尾卓也土木研究所研究調整官による挨拶の後、最優秀研修生に授与される”Sontoku AWARD”がパキスタンの SIDDQUI QAZI TALLAT MAHMOOD 氏に授与されました。

研修生は3週間という短い期間で、様々な知識や経験を得て自国に帰国しました。

前述の通り、本研修は3ヶ年計画で実施しており、来年度は今年度の研修生が作成した研修計画にのっとり研修生が来日する予定です。



佐藤 JICA 筑波所長による挨拶



瀬尾 研究調整官による挨拶



“Sontoku AWARD”の授与



閉式後の集合写真